

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：フランス学に触れる ILAS Seminar :Getting in touch with French Studies			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授 立木 康介 人文科学研究所 教授 森本 淳生 人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (15) 人	配当学年	1 回生	対象学生	全学向
曜時限	金5	教室	人文科学研究所本館1階セミナ ー室2(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	地域研究(フランス) / 思想 / 文学 / 歴史 / 音楽						
[授業の概要・目的]							
<p>フランス学に触れる 思想・文学・言語・音楽</p> <p>近現代のフランス文化は、絶対主義から革命を経て共和国へと変遷する歴史の流れを背景に、独特の洗練と先鋭性を加え、ヨーロッパのみならず世界各地で大きな影響力をもってきた。まただからこそ、20世紀後半のフランスでは、多くの思想家や芸術家が、同時代の社会や個人のありかたを根本的に問い直すような仕事を生み出すことにもなった。本セミナーでは、16世紀から20世紀まで、フランスで提起されてきたさまざまな問題を取りあげ、それを代表的な思想家・作家の作品や具体的な歴史的文書に即して議論しながら、近現代のフランス文化にじかに触れ、その特質を理解すること、そのような作品を生み出したフランス語の特徴について認識することを目的とする。また、フランスのみならず、近現代のヨーロッパの歴史と文化を理解したり、現代の思想・文学・音楽・社会などの諸問題を考えるうえで必要となる基本的な概念を知り、理論的な理解を深めることを目指す。さらに、日本とフランスの文化交流史を踏まえ、日本からフランスに留学する意義を考察するとともに、その可能なルートを紹介する。</p>							
[到達目標]							
<ul style="list-style-type: none"> ・近現代フランスで生まれた作品の一端に触れることで、広くフランスやヨーロッパの文化や歴史にかんする教養を身につける。 ・近現代フランスやヨーロッパに由来する人文社会系諸学の基礎概念の歴史的背景を理解し、理論的な素養を身につける。 ・講師によるテキストや画像、映像の読解や解釈の実演を通じて、思想研究・文学研究・歴史研究などの手法に触れる。 							
[授業計画と内容]							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業ガイダンス 2) パスカルとその時代 3) フランス近現代詩 言葉のかたちに触れる 4) 近代科学の創生：近世・近代のフランスの科学者たち 5) プルースト『失われた時を求めて』を読む 6) 19世紀のグランド・オペラとピアノ音楽：G・マイアベーアの《ユグノー教徒》をめぐる 7) 19世紀の歌姫たち 天使の声、蓄音機の声 8) 自己を語ること：ルソー『告白』を読む 9) 京都における日仏文化交流史 関西日仏学館を中心に 10) 日本語とフランス語はどれくらい似ていて、どれくらい違うのか 11) カミュ『ペスト』を読む(1) 12) カミュ『ペスト』を読む(2) 13) フランス「で」学ぶ フランス留学の主要なルート 							
ILASセミナー：フランス学に触れる(2)へ続く							

ILASセミナー : フランス学に触れる(2)

- 14) 授業のまとめ
15) フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

評価は平常点（授業への参加度、各回の課題：90%）と期末レポート（10%）によって行う。

【教科書】

セミナー各回でとりあげるテキストや画像は、プリントで配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

とりあげるテキストや画像はできるかぎり事前に配布するので、履修者には配布されたプリントに目を通しておくことが望まれる。

【その他（オフィスアワー等）】

【主要授業科目（学部・学科名）】